広島経済同友会 文化振興委員会

令和6年度 活動報告書
「城と城下町」①

2025 年 3 月

HIROSHIMA KEIZAI DOYUKAI

広島経済同友会

はじめに

2025 年の被爆 80 周年を前にして、ともすると広島の文化は戦後復興のなかで語られがちです。しかし、広島の町としての発展は、葦の原だった太田川河口の三角州に毛利輝元が広島城を築城した時から始まりました。やがて城下町としてさまざまな経済活動が繰り広げられ、人は集まり、まちは町として成長し、その過程で、広島のあらゆる生活文化が育まれていきました。

1945 年 8 月 6 日に落とされた一発の原子爆弾により壊滅状態となった広島の町。広島城は焼失し、その他多くの歴史的構造物も失われました。しかし、その痕跡は多く遺され、“文化”はしぶとく生き残り、これを足掛かりにして、落日がふたたび朝日となって天高く上るように、広島は見事に復興を果たしていきました。そのことがいま世界中から賞賛を浴びています。

文化振興委員会では、スローガンである「広島を“いかそう”～新時代への適応と持続的な発展を目指して～」を実践的に展開するためには、広島城築城以来の歴史文化を学んでこそ、そこに“生かす”ヒントが数多く見つかるとの考えのもと、令和 6 年度は「広島城とその城下町」をテーマに学習、視察体験をおこなってきました。

折しも、世は空前のお城ブーム、全国 50 城に約 2000 万人が訪れるほどの活況ぶりです（2023 年、インバウンド含む）。広島県においても令和 5 年度には、福山城が築城 400 年を迎えるのを機に、多彩な事業を展開するキャンペーンを市を上げて取り組まれ大きな実績を残されました。これに関して当委員会では広島経済同友会 福山支部のサポートをいただき、福山城をメインテーマに視察会および副市長による講演会、交流会を開催。福山城と城下町がその歴史価値を活かすことで福山市の活性化のために重要なコンテンツになることを実感しました。

そこで当委員会では令和 6 年度より「城と城下町」をテーマにして活動することとしました。この間、広島城周辺においては、新サッカースタジアムのオープン、隣接するひろしまスタジアムパークや芝生ひろば“HiroPa！”など中央公園一帯は新しい姿を現し、コロナの 5 類移行やインバウンド需要の拡大とも相まって、一帯は大きな賑わいを呼んでいます。引き続き、2025 年 3 月には広島城三の丸整備事業のうち第 1 期商業施設がオープン。観光資源として、広島の歴史文化の発信源として、広島城やこれにともなう様々なコンテンツは価値を高めていくと思われます。

本報告書では、令和 6 年度の「城と城下町」をテーマに活動してきたこの 1 年の成果を報告するとともに、今後第 2 弾、第 3 弾と積み重ねて取りまとめて参ります。

序章　（令和 5 年度事業 福山城視察会）

2024.1.31

福山城など視察

城の魅力と活用を考えるシンポジウム（福山市）

築城 400 年の節目を迎えた福山城のお膝元・福山市で、福山支部との連携事業として約 40 名の参加を得て「築城 400 年福山城視察・講演会・交流会」を開催した。

「新幹線の駅から最も近いお城」のキャッチフレーズで知られ、福山市の主要な観光スポットでもある福山城は、築城 400 年記念事業として 2017 年以来 2022 年度まで 5 年間さまざまな取り組みをおこなってきた。「鉄板張り天守」復活や福山城博物館リニューアルをはじめ、福山城に宿泊する「キャッスル・ステイ」の実施など、いずれもお城ファンのみならず、全国区の話題となり市の観光振興に大きく寄与した。

視察では、福山城博物館学芸員様にご案内いただき、まずは福山城の「令和の大普請」で復元された北面外壁の鉄板張りを見学。白と黒のコントラストがお城の秀麗な姿をより際立たせており全国のファンが訪れるのもうなずける迫力である。このように天守の壁面を鉄板張りにしたのは全国唯一とのこと。リニューアル前は 10 万人に届かなかった入城者数がリニューアル後の 2023 年 16 万人を超える入場者数があったとのことで、大きなリニューアル効果があったようだ。

続いて、城址公園内の県立歴史博物館を視察。こちらは草戸千軒ミュージアムの別名が示すように中世福山の暮らしぶりを伝える草戸千軒の遺構をはじめ港町を実物大で展示するなど、圧倒的なスケールと学術的な価値の高い展示を再認識することができた。福山市における非常に魅力的な観光資源のひとつとなっている。

その後、会場を移し、小川政彦副市長の基調講演や、広島大学特命教授の木曽功氏をファシリテーターとするシンポジウム「城における魅力と文化価値向上に向けて」を聴講。地域振興における城の活用ついて、参考になる有意義な時間を得た。

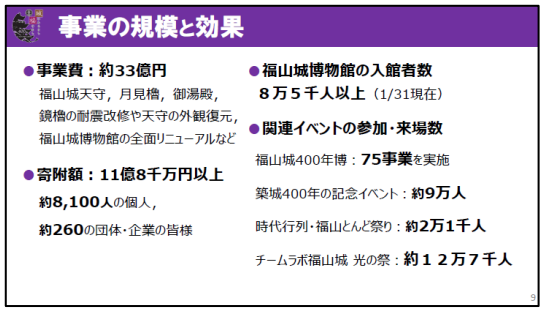
小川政彦副市長の基調講演(要約)

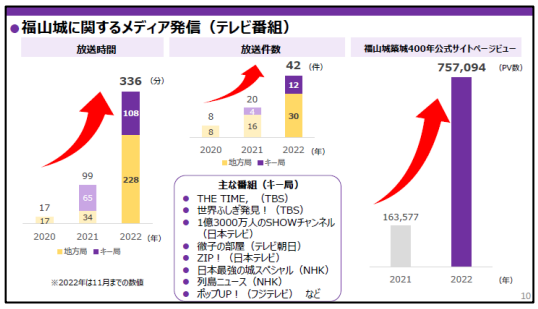
・目的と展開時期

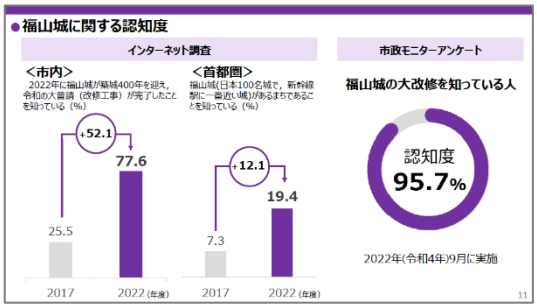
福山城築城 400 年記念事業の取り組みにあたっては、①福山城築城 400 年を契機として、先人の歩みや大切にしてきた思いをあらためて振り返り、市民の心を一つにする機会とする。②福山城をはじめ、市全体の歴史・文化資源等の価値を再認識し、磨き上げ、その魅力を市内外に発信することで「城があるまち福山」を市民全体の誇りとする。などを目的に 2019 年の水野勝成初代藩主入封 400 年、さらに 2022 年の築城 400 年など 2017~2022 年度にかけて多彩な事業を展開した。

・効果

多くのコンテンツを繰り出すことで、メディアでも多く取り上げられ、結果として福山城に対する認知度は市内においても首都圏においても大幅に上昇。2022 年「お城の 10 大ニュース」の 2 番目に登場するなど効果は顕著だった。







･委員からの声

その結果として「お城をテーマに市がひとつになった」「市民の企画で盛り上がったのは市の将来に向けてよい機運となった」「課題の若い世代の参加については，チームラボや市民企画事業など複合的な取組で効果を上げた」などさまざまな成果・効果があった旨、委員からも声が上がった。

・今後の展開

今後については「NEXT400 年」として、にぎわいの継続をめざして、ナイトタイムエコノミー（夜間の活動を通じて、地域の魅力や文化を発信し、消費拡大などにつなげる）を核とした新たな事業を多彩に展開することとしており、「福山城とその城下町」をテーマとしたさらなるにぎわい創出、観光振興が期待される。

福山市では、ほかにも映画「THE BATMAN -ザ・バットマン-」とのコラボで、ゴッザム・シティと友好都市提携を結んでいる。これは史上初の取り組みとして各メディアでも大きく取り上げられた。福山市は 2013 年に映画『ウルヴァリン：SAMURAI』のロケ地に選ばれるなどもともとハリウッドと親和性の高い地域。福山市の市章がバットマンのシルエットに見えることも話題となり、今回の取り組みは福山市の認知度を高めるのに大きく貢献した。このように福山市では市の歴史的・文化的コンテンツを有効活用しユニークかつ多彩な企画で観光振興を推進されており、参考事例としても非常に魅力的な取り組みとなっている。

福山市の市章

この「福山城の視察」では「城と城下町」というコンテンツが各地域におけるにぎわい創出の非常に重要なコンテンツとなり得ることが良くわかった。この視察がきっかけとなり令和 6 年度の当委員会の活動テーマが「広島城とその城下町」となったのである。

令和５年度では、歴史的文化財などを所有する文化拠点における自然保存、価値の向上、インバウンド効果や、その発信力をテーマに卓話を開催し見識を深めた。歴史的にも文化要素を体感できる「比治山公園 “平和の丘”」の今後の発展的構想、また G7 広島サミットが「名勝 縮景園と庭園に面した広島県立美術館」に与えた観光客動向などをテーマに卓話をいただいた。また、視察会では、「築城 400 年 福山城視察・講演会・交流会」を開催。福山市では福山城築城 400 年記念事業として、「鉄板張り天守」復活や福山城博物館リニューアルなど多くの事業に取り組むほか、映画「BATMAN」とのコラボで、ゴッザム・シティと姉妹提携を結ぶなど多彩な企画で観光振興を推進、国内外に発信した事例やふくやま草戸千軒ミュージアムの学術的価値の高い遺跡の存在を学んだ。
令和６年度は、引き続き、広島経済同友会の基本方針である「広島を“いかそう”」のもと、文化価値を活かしたまちづくりを視野に入れ、講演会、視察会を開催し広島県内の文化財の見識を深め、新たな付加価値の掘り起こしや、より魅力的なものにするため“まちづくり”、“観光振興”などの観点からにぎわい創出への糸口となる可能性を見出す活動を各部会、委員会、支部と連携を持って行う。

（１）　広島文化の見識を深める
（２）　文化資源の磨き上げおよび検証
（３）　文化価値発信の地域視察

文化振興委員会として令和 6 年度以降、広島城三の丸など広島城を中心とする事業が展開されることを視野に入れ、 「城と城下町」をテーマとして事業を推進する

〈活動内容〉
第１回　正副委員長会議　（令和６年度　2024 年４月 26 日）
第１回　委員会　（令和６年度　2024 年７月９日）
第２回　正副委員長会議　（令和６年度　2024 年８月 28 日）
第２回　委員会　（令和６年度　2024 年 10 月 28 日）
視察会　（令和６年度　2024 年 12 月３日・４日）
第３回　正副委員長会議　（令和６年度 2025 年２月５日）
令和６年度 文化振興委員会活動報告書作成　（令和６年度　2025 年３月末）

令和６年度 活動報告①

2024.7.9

ブラタモリ風ワークスタディ「実は、知れば知るほど、もっとオモシロイ“広島城”」
講師　広島城学芸員 本田美和子氏

・ワークスタディ

広島城をテーマに人気TV番組さながらの「ブラタモリ風ワークスタディ」と卓話を組み合わせた勉強会を開催。すでに酷暑に突入した広島城とその界隈を城内施設や木陰などに立ち寄りながら、“ぶらぶら”見学して回った。

案内役を務めていただいた本田美和子さん（広島城学芸員）は実際に『ブラタモリ 広島篇』で案内役として出演された方。楽しくわかりやすい解説が好評だ。
二の丸表御門内でのガイダンスでは、広島城のこれまでの歩みとそれぞれの時代との関わりを学ぶとともに二の丸内をめぐり、広島城の二の丸が本丸を守る重要な役割を果たしていたことを学んだ。

その後、表御門からブラ散歩をスタート。リーガロイヤルホテル広島まで、途中に見られる遺構や各地点の歴史的なお話をお聞きしながら散策していった。
お城の南側、城南通りをもぐる地下道では、内堀とかつての中堀を結ぶ暗渠跡を確認。原爆被災により確かに天守閣など主要な建物は焼失してしまった広島城だが、いまも当時をしのばせる遺構があることに感激する。
また、ホテル前の東西の道路が、かつて侍が馬の練習をした「八丁馬場」であること、またこれにそって中級武士の屋敷が連なっていたこ

とが紹介された。現在では、街は大きく姿を変えてはいても、まち並みや地名などに広島城下の人びとの暮らしや城を中心としたまちづくりの様子をしのぶことができることなどを学ぶことができた。ビルの谷間、馬上の勇ましい武士の姿をふと妄想する。

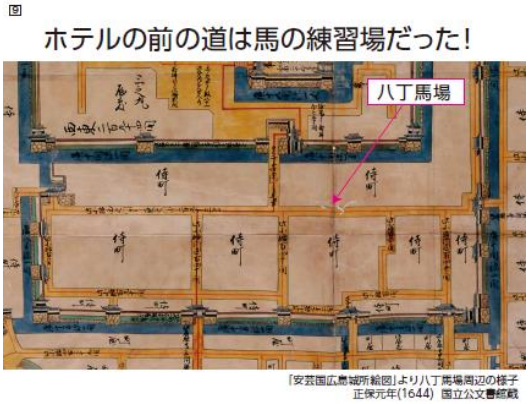
・卓話

ホテル内でおこなわれた本田美和子さんによる卓話は「実は知れば知るほど、もっとオモシロイ“広島城”!?」と題した広島城の歴史や時代に応じたその役割の変遷についてお話しいただいた。

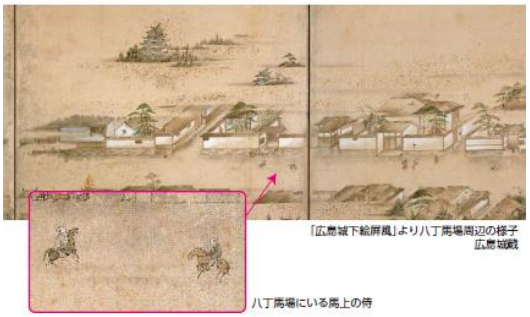
広島城は中国地方に権勢をふるった戦国大名毛利元就の孫にあたる毛利輝元が築城したもの。元就の郡山城(安芸高田市吉田)が山城であったのに対し、輝元は太田川のデルタ地帯に当時主流だった平城として広島城を築城した。松本城や二条城とともに日本三大平城のひとつに数えられる広島城は、城下町としての町の発展を促し、特に福島正則が入城してからは町人の居住区が拡大し、商業の急速な発展を見たことなどを数多くのスライドとともにわかりやすく紹介された。

その福島正則時代の逸話として、正則が勝手に城の修繕を進めたことに対する時の将軍、2 代秀忠の怒りを鎮めるため、修築した石垣を壊しているが、現在でもこの壊したとされる石垣跡を見ることができるとのことで、皆興味深く聞き入っていた。

また、復元された現在の広島城が 5 層 5 階建ての天守であるのに対して、当時は 3 層 3 階建て天守を南側と東側に連結した他に例のない壮大な城だったとのこと。これがもし復元・再建さ



「安芸国広島城所絵図」より八丁馬場周辺の様子
正保元年(1644) 国立公文書館蔵


「広島城下絵屏風」より八丁馬場周辺の様子
広島城蔵
八丁馬場にいる馬上の侍

安芸国広島城図　元禄14年(1701) 広島城蔵

れるようなことがあれば、世界中から注目されること間違いなし、と思わず夢想してしまうほどである。

明治時代に入り、軍都となった広島にあって、広島城には大本営が置かれ、ますます広島は発展していったが、たった一発の原子爆弾により、広島城も、広島のまちも壊滅することになる。葦の原でしかなかった場所が、築城とともに発展、やがて軍都化をへて原爆被災。広島城の再建は広島復興の象徴でもあった。このように常に広島の中心であり続けた広島城の歴史をわたしたちはもっと学ぶ必要があることを感じさせる卓話となった。

「ブラタモリ」でも活躍された本田さん

令和６年度 活動報告②

2024.10.28

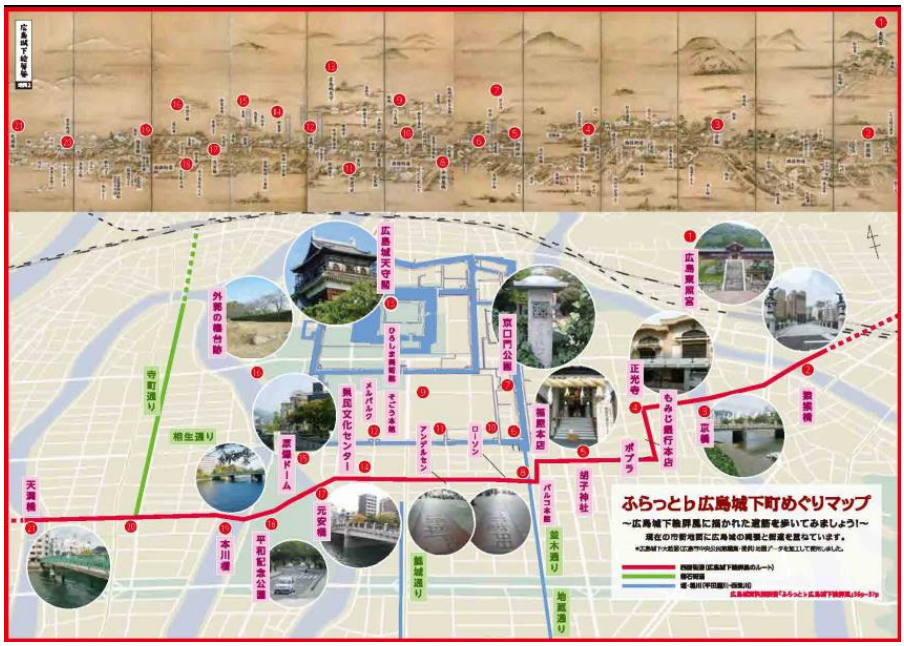
第１部　出前授業「ひろしま歴史再発見　“西国街道”」
まちなか西国街道推進協議会　事務局長　高山 清 氏

第２部　まちなか西国街道推進協議会の活動について
まちなか西国街道推進協議会　会長　山本 一隆 氏

広島城の城下町として発展した広島の歴史文化を学ぶ上で重要なテーマが「西国街道」であれる。今回は、往時の面影を数多くとどめる「西国街道」をテーマに出前授業と卓話を開催した。

西国街道とは

京都（東寺口）から大山崎、高槻等、淀川右岸を通り、大坂を経ないで西国（下関、九州まで）へ至る江戸時代の重要な幹線道路。
広島では当初地盤がゆるかった太田川河口のデルタ地帯を避け、大きく北へ迂回するルートを取っていたが、広島城築城後、広島の町がその城下町として発展すると、城下を東西に貫いて通るルートへと変わった。水上交通に優れた広島城下は、西国街道が整備されたことにより水陸の物流の拠点としても大いににぎわいを見せることとなる。



西国街道 map

第１部　出前授業「ひろしま歴史再発見　“西国街道”」
まちなか西国街道推進協議会 事務局長 高山　清 氏

高山正氏より「ひろしま歴史再発見 出前授業」について紹介していただいた。「ひろしま歴史再発見 出前授業」とは西国街道をテーマに、城下町広島がどのような町だったのか、人々はどのような暮らしだったのか、当時のファッションやショッピングなどについて、当時描かれた「広島城下屏風絵」をテキストにして楽しく学ぶもの。

2019 年にスタートし、これまで広島市内の幟町、竹屋、本川の各小学校の 6 年生を中心におこなわれており、講師は広島城や広島市郷土資料館の学芸員が担当されている。この授業によって児童たちは自分たちが暮らしている町の昔の姿を知ることができ、歴史に深い興味を持つようになった。

今回は、参加した委員会のメンバーで、実際に出前授業を体験した。

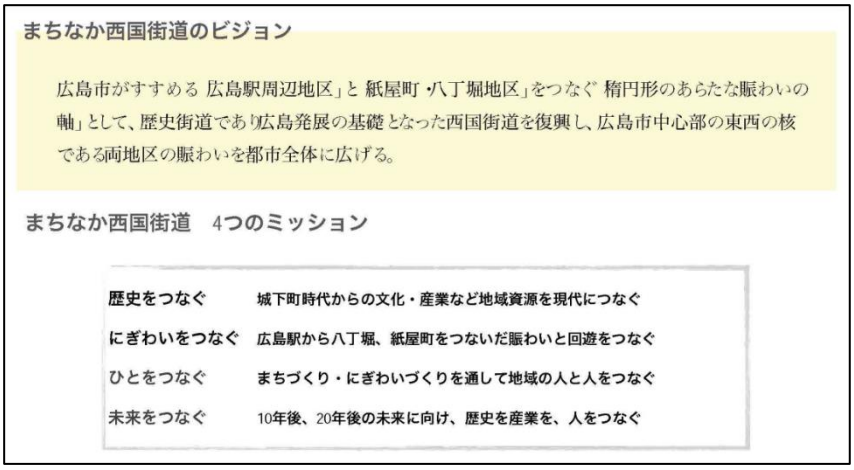
実際のテキストを使用し参加者のみなさんが解いていく方式で、西国街道にある城下繁華街の様子を通じて町人や庶民の暮らしぶりを学んだ。

また、新しい取り組みとして「街道山車」について紹介があった。これは歴史文化の可視化を目的に「街道山車」を製作、これに子どもたちが絵付けをするなど、手作りの参加性のある取り組みである。地域の祭りで使用するほか、貸し出しにも対応するとのことで、地域の歴史文化をさらに広めていこうという機運の醸成を図っているとのことだ。

出前授業で使われるテキスト

第２部　まちなか西国街道推進協議会の活動について

まちなか西国街道推進協議会　会長　山本一隆 氏



まちなか西国街道のビジョン

広島市がすすめる 広島駅周辺地区」と 紙屋町 ・八丁堀地区」をつなぐ 楕円形のあらたな賑わいの軸」として、歴史街道であり広島発展の基礎となった西国街道を復興し、広島市中心部の東西の核である両地区の賑わいを都市全体に広げる。

まちなか西国街道　4つのミッション

歴史をつなぐ	城下町時代からの文化・産業など地域資源を現代につなぐ
にぎわいをつなぐ	広島駅から八丁堀、紙屋町をつないだ賑わいと回遊をつなぐ
ひとをつなぐ	まちづくり・にぎわいづくりを通して地域の人と人をつなぐ
未来をつなぐ	10年後、20年後の未来に向け、歴史を産業を、人をつなぐ

山本一隆氏より「まちなか西国街道推進協議会」の活動について紹介していただいた。

2015 年広島市は「都市活性化プラン」のなかで広島駅周辺地区と紙屋町・八丁堀地区をつなぐ「楕円形のまちづくり」を発表した。その中心を貫くのが「西国街道」であったことから、まちづくりの貴重な礎としてこれを捉え、「歴史をつなぐ」「にぎわいをつなぐ」「ひとをつなぐ」「未来をつなぐ」の４つのミッションと①西国街道の周知・可視化 ②賑わい創出と定着 ③次世代への継続 を実行するアクションプランを策定し、2018 年「まちなか西国街道推進協議会」が設立された。

ステッカーやマンホール、案内板、サインボードなどを製作し可視化を図るとともに、「西国茶や Bar」「浅野家入城 400 年 入城行列・時代行列」「広島諸商仕入買物案内記展・砂持加勢展」「かさなるひろしま写真展」などのイベントを開催し賑わいを創出したことなどが紹介された。

そのほかにも「西国街道」を切り口に、「ひろしま歴史再発見 出前授業」「ワークショップ」「歴史電車」などで「まちを知る」機会を創出、また日本酒、もみじ饅頭、銅蟲、灯籠、盆栽など城下町広島で受け継がれる産品を「ひろしま西国街道ブランド」として展開する「つないで、生み出す」事業を実施するなど、発出するコンテンツは実に多彩で楽しさにあふれている。

こうした活動が評価され、2019 年には中国経済連合会・国土交通省中国地方整備局の「夢街道ルネサンス」に認定、「まちづくり功労者国土交通大臣表彰」の評価を受けた。

2025 年以降も、街道(道路)への表示(アスファルト・ストリート・プリント)などの次なる取り組みも積極的に実施される予定で、非常に活気に満ちた事業となっていることを知ることができた。

令和 6 年度 活動報告③

2024.12.3~4

国宝 松江城・堀川めぐりと島根経済同友会観光振興委員会との交流

①島根県松江市のシンボルとして愛されている国宝 松江城の魅力と堀川めぐり体験

②国宝松江城とその城下町視察

山陰の厳しい冬を目前にした城下町・松江を委員会メンバーで視察した。

現存天守 12 城のひとつに数えられる松江城。中国地方では備中松山城(岡山県高梁市)とここだけであり、国宝 5 城のひとつとしても知られている。そのため松江城とその城下町には年間を通じて多くの観光客が訪れる。

(初日)松江堀川めぐりに乗船。松江には城だけでなくお堀も当時のまま残されている。個性豊かな 17 の橋、武家屋敷などの町並みや周辺の自然など、江戸時代の文化的風情を船頭さんの軽快なガイドを聞きながら、そのまま体感できる他にはない松江ならではの貴重なコンテンツである。

その後、松江市の飯塚康行松江城・資料調査課長の案内で2025年に国宝指定10周年となる松江城を視察。”ほんもの”だけがもつ圧倒的存在感と迫力を目の当たりにすることができ、城が観光における重要な歴史文化コンテンツであることを再認識した。

また同氏による「松江城を後世に伝えるために」と題した卓話も拝聴することができ、文化的価値の向上と継続性の重要さへの認識を新たにした。

夜には、島根経済同友会の観光振興委員会のメンバーとの意見交換会も開き、大変有意義な松江の視察・研修となった。

（２日目）城下町・松江めぐり。最初に訪れた「カラコロ工房」は、数々の西欧古典様式をもった銀行建築を世に送りだした建築家長野宇平治氏の設計で、昭和 13 年に「日本銀行松江支店」として建てられたものを改装している。現在は「食」「文化」「アート」を楽しめる場所になっている。外観に見られる全面の柱や、銀行として使われていた頃のカウンター、照明、二階部分の回廊、窓に残る格子など当時のままを残しており、なかでも貸展示室として利用されている地下の金庫室に残る大扉は、この建物が銀行であった一番の名残として公開されている。

続いて訪れたのが「レトロ京町商店街」。ここは 5 代松江藩主松平宣維が京の都を再現した町並みを作ったことがその始まりとされ、100 年以上続く老舗や伝統の味を受け継ぐ和菓子店、八雲塗りの漆器・陶器、安来鋼の刃物など、約 60 店舗のお店が並び、昔懐かしい風情とともに城下町の往時の賑わいの一端をいまでも引き継いでいる。

おわりに

広島市街地のほぼ中心に位置する、サッカースタジアムがある中央公園エリア。そこから徒歩でも 30 分内の広島駅とその周辺エリア。いま広島は空前の再開発ブームに沸いており、その一翼を担っているのが中央公園エリアに含まれる広島城を中心に据える広島の歴史文化ゾーンと言えるでしょう。2025 年春には、さらにこのゾーンに広島城三の丸事業がいよいよスタート。ことはじめに第 1 期商業施設がオープンし、ますます広島城の歴史文化的価値は高まり、観光振興に資するコンテンツとなります。

「広島城と城下町」をテーマに令和 6 年度さまざまな取り組みをおこなってきた当文化振興委員会では、さらにこのテーマを深堀りし、より実践的な学習・体験を通じて体得したものをベースに、広島の振興に直結する、次なる有効的な提言へとつなげて参りたいと考えております。

引き続き会員の皆様のご協力の元、他の委員会とも横断的な連携を図りながら、チャレンジ精神を忘れずに取り組んで参ります。どうぞご理解、ご支援のほどよろしくお願いいたします。